―秦野の縄文土器―

縄文土器は容器としての実用的な機能のほか、様々な文様や意匠が見られます。時期の移り変わりとともに土器も変化します。一定の範囲で地域性を有していますが、他地域の土器が搬入品として出土する場合もあります。これら土器の移り変わりに着目して年代観を捉える「土器編年」の研究が戦前から進められてきました。

秦野の縄文土器を見ると、粗密はありますが草創期から晩期までの足跡を確認できます。なかでも東北・東海・中部地方をはじめ西日本と関係が考えられる土器の出土は各地域との交流を裏付けるもので特筆されます。

これら縄文土器には当時の環境や社会の要素が色濃く反映されていると考えられますが未解明な部分も多く、様々な研究課題があります。

寺山金目原遺跡出土土器

草創期

市内の草創期は土器の出土事例が少なく詳細は明らかでありません。

寺山中丸遺跡の隆起線文土器や近年実施された新東名高速道路建設事業に伴う発掘調査では、戸川諏訪丸遺跡では爪形文土器が出土しています。

早期

早期土器は、撚糸（よりいと）文系土器・沈線（ちんせん）文系土器・貝殻条痕（じょうこん）文系土器と移り変わります。市内の遺跡では、各時期の出土事例がありますが、破片資料が主体です。

撚糸文系土器の器形は砲弾形で底が丸みを帯びながら尖ります。文様は繊細な縄目が施され、文様構成と口縁部の形などで時期の変化が読み取れます。

沈線文系土器の器形は天狗鼻状の鋭く尖る底が特徴です。文様は、鉛筆位の棒状工具により太い沈線文が施されるものが主体です。

貝殻条痕文系土器は、底部が尖底から平底に移り変わる時期にあたります。器面の内外には貝殻を使って器面を調整した筋状の痕跡などが見られます。この時期から前期中葉期頃までの土器には、粘土に繊維を混ぜている

１東田原八幡遺跡　深鉢形土器

ことから繊維土器とも呼ばれ、やや軽い質感を有しています。

早期末葉から前期は温暖化による縄文海進があった時期です。前期は草山遺跡など市内の各所で出土事例はありますが、破片資料が主体で、遺跡の密度は高くありません。

前期

前期後葉は、東北久保遺跡で遺構に伴う土器の好例があります。

僅かに浮き出る浮線文などにより文様が施されます。

2 東北久保遺跡
深鉢形土器

中期初頭期

3 山之台遺跡
深鉢形土器

4 根丸島遺跡
浅鉢形土器

中期初頭は土器の口が大きく開く器形が多くなります。文様は複数の線が平行に施される集合沈線文や線の間に上下または左右から交互に工具を突き刺す交互刺突（しとつ）文が特徴の一つです。

土器の粘土をみると金雲母（かねうんも）と呼ばれるキラキラ光る鉱物を多量に混ぜています。

この時期はほとんどが深鉢形土器ですが、根丸島遺跡で出土した浅鉢形土器は珍しく貴重な出土事例です。

中期中葉期

5 太岳院遺跡
深鉢形土器

6 寺山金目原遺跡
深鉢形土器

縄文時代の中期は遺跡数が増大し、集落規模が大きくなる時期です。

中葉の土器は、大型の土器が増え、立体的な文様や装飾が施されます。ペン先状の工具を押し引きしながら線を描くものや、太い粘土紐を貼り付け、その上にヘラ状工具による刻みを施すものなどがあります。口縁部などには粘土紐を円形にした眼鏡状突起もこの時期の特徴の一つです。

中期後葉期

7 太岳院遺跡
深鉢形土器

8 今泉峰遺跡
深鉢形土器

9 太岳院遺跡
浅鉢形土器

10 太岳院遺跡
釣り手土器

中期後葉は口縁部が強く内湾し、胴部が膨らむ「キャリパー形」が主体となります。神奈川県西部に位置する秦野市域では、関東地方に分布の主体を持つ「加曽利 E 式土器」と中部地方に分布の主体がある「曽利式」の両者が出土します。

鉢形土器は頸部が「く」の字状に屈折するものや土器の両端に耳のような環状の把手が付くものなどがあります。

太岳院遺跡の釣り手土器は出土事例が少なく、貴重な発見例です。類例では煤状の付着物が見られることから、祭祀的な行為に使われる灯火具ではないかと考えられています。

中期末葉～後期初頭期

11 今泉峰遺跡
深鉢形土器

12 今泉峰遺跡
深鉢形土器

中期後葉期に深鉢形土器にみられたキャリパー形土器は全体の形が崩れて、穏やかに膨らむヒョウタンのような器形になります。文様は口縁部の

13 菖蒲内開戸遺跡
（中期末葉）

14 菖蒲内開戸遺跡
（後期初頭）

文様帯が消失へ向かいながら幅狭の文様帯として残り、その区画には微隆起線や沈線が名残として見られます。胴部の文様は幅広の文様帯として縄文と無文が交互に表現されています。

後期初頭は中期末葉期の文様構成を踏襲しながら沈線区画による帯状文などにより直線的・曲線的な文様が施されます。

菖蒲内開戸遺跡では中期末葉と後期初頭の土器が重なって出土しており、同時存在を示していると考えられます。

後期前葉期

15 太岳院遺跡
深鉢形土器

16 太岳院遺跡
鉢形土器

後期前葉の器種は、深鉢形・鉢形・浅鉢形・注口土器などがあります。深鉢形土器は丁寧なつくりのものと、簡素な沈線文のみが施される土器があります。深鉢形土器はアサガオの花の

17 寺山遺跡
注口土器

18 曽屋吹上遺跡
注口土器

ように直線的に開く器形が出現し、この時期の特徴を示しています。

注口土器は優品があります。用途や内容物については祭祀的な道具であることなど諸説あります。廃絶された竪穴建物の床面に置かれた状態で発見されることも多く、出土状況も含めて、その用途や機能を考えていく必要があります。

後期中葉期～晩期土器

19 寺山金目原遺跡
鉢形土器

20 寺山遺跡
舟形土器

後期中葉期は様々な形が増え特殊な器形の異形土器も見られます。

この頃の土器は関東地方以外にも

21 太岳院遺跡
深鉢形土器

22 堂坂遺跡
浅鉢形土器

23 堂坂遺跡
浅鉢形土器

24 平沢同明遺跡
香炉形土器

東北～西日本まで広域的に分布する特徴があります。

晩期は東北地方や中部・東海地方の影響を受けた土器が出土しています。

25 堂坂遺跡
注口土器

市域ではこの事例が多くあり、堂坂遺跡で出土した注口土器は、東北地方土器の模倣品と考えられるものですが、その特徴をよく捉えた優品です。

これら異系統土器の出土は周辺地域との関係を捉える上での重要な事例で、秦野盆地は当時の交易・交流の経路にある重要な位置であったと言えます。そして後期後半から晩期にかけて、神奈川県内の遺跡数は極端に減少し、縄文時代は終焉を迎えます。

発行　令和5(2023)年4月25日
編集　〒259-1304
神奈川県秦野市堀山下 380－3
はだの歴史博物館
Tel.0463-87-5542　FAX 0463-87-5794